

まえがき

本報告書は、2014年1月25日（土）に開催された、人間科学研究所年次総会・同全所的プロジェクト「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学＝実〉連環型研究」（略称 TransIS）プロジェクト・キックオフミーティングの記録である。同プロジェクトは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業を受けて、インクルーシブ社会に向けて実践応用促進的な支援研究（トランスレーショナル支援研究）の基盤を構築すべく、2013年度から2015年度まで実施される。

この会議は、3つの目的をもって実施された。まず、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学＝実〉連環型研究」の発足を示すことである。このプロジェクトは、人間と環境に関するテーマについて分野横断的な研究を推進してきた人間科学研究所が全体として取り組んでいるものである。

第2の目的は、戦略的プロジェクトの今後の方向を、研究所、特にプロジェクト参加研究者で共有し、相互の交流を図ることにより、研究活動をさらに発展させることである。そのような展開を考える上で、エビデンスにもとづいたソーシャル・ワーク実践について、国際的に著名なハルク・ソイダン（Haluk Soydan）南カリフォルニア大学ソーシャル・ワーク学院教授から基調報告をいただいた。

3つ目の目的は、人間科学研究所で実施されている人間科学分野における新しい研究成果を共有し、今後の研究展開につなげていくことである。ポスターセッションでは全所的プロジェクトの成果に加えて、2013年度より開始された萌芽的プロジェクト研究助成プログラムの成果が報告された。そこで示された新しい研究の芽が、今後大きく育っていくことを願っている。

以上の目的により、会議は3部構成で行われた。第1部のポスターセッションでは、プロジェクト参加研究者と2013年度人間科学研究所萌芽的プロジェクト研究助成プログラムの採択者による14の報告が行われ、活発な討議が行われた。

第2部では、ハルク・ソイダン教授により、基調報告「対人支援におけるエビデンスに基づく実践」（“Evidence-Based Practice in Human Services”）がなされた。対人支援におけるエビデンスの問題を長らく研究されてきたソイダ

ン教授の報告は、実践的な成果につなげる学術的研究とその方法論に関心を持つ本プロジェクトにとって大変有意義なものとなった。

第3部では、プロジェクトリーダーとチームリーダーによるパネルディスカッション「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学＝実〉連環型研究を展望する」が行われた。

本報告書には第1部のポスターセッションについては演題のみを記し、主に第2、3部の内容を掲載している。なお、基本的には会議の内容に添っているが、報告書掲載にあたり若干の加筆・修正が行われている。詳しくは、それぞれの注記をご覧ください。

ここで述べられている議論が、インクルーシブ社会と支援のトランスレーショナル研究に関心をお持ちの方すべてに役立つことを願っている。

最後に、本会議にご参加いただいたすべての方に、この場を借りて心から感謝を申し上げます。とりわけ、「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学＝実〉連環型研究」プロジェクトの代表を務められ、パネルディスカッションの司会でもご活躍いただいた稲葉光行教授にお礼を申し上げます。また、総会の運営ならびに本号編纂に尽力いただいた人間科学研究所事務局の難波しのぶさん、片山詩朗さん、荻野純子さん、に感謝する。

立命館大学人間科学研究所
所長 松田 亮三